

いわき市連携「未来を支える産業人材育成事業」 ～浜通りに届ける復興の風プロジェクト～

採択大学等名

東京大学

(共同申請校: 福島工業高等専門学校)

連携市町村名

いわき市

取組概要(目的)

原発事故以降、「福島イノベ構想」「福島新エネ社会構想」、さらに「2050年カーボンニュートラル宣言」及びそれに伴う「グリーン成長戦略」が策定され、再生可能エネルギーを取り巻く環境は、国内、福島県内において大きな過渡期を迎えており、いわき市でも風力産業政策を進めている。

本事業では、いわき市が目指す風力発電をはじめとした再生可能エネルギーによる新産業創出に向けた取組みと連動して、東大先端研と福島高専との共同で、以下の3つを柱として地域の関係機関と連携しながら取り組む。

◆復興・カーボンニュートラルを支える人材を育成

◆新たな労働環境の形成

◆浜通り地域への交流人口の拡大

これにより、福島イノベーション・コースト構想の実現や持続可能な社会の構築に貢献、また、「第2期復興・創生期間」の終期を見据え、いわき地域から浜通り地域に広げつつ、復興知事業が自立した地域の政策となることを目指す。



これまでの成果

復興知事業の活動については、理解を得ながら地域のステークホルダーを巻き込み、取組みを展開しているところである。

事業当初から協力連携関係にあった福島高専とは、これまで再生可能エネルギーやカーボンニュートラルを支える人材の議論を東大先端研と重ね、相互にその将来性・必要性を共有したことで、今年度より**福島高専も本事業主体(共同申請校)として参画**することとなった。

このことにより、地域の高等教育機関である福島高専と**今後の地域の人材育成のあり方を検討する体制**が整ったとともに、そこで構築・形成された成果は復興知事業の終期を問わず、**持続的に地域の教育システムとして運用**されることが期待される。

事業終了時点の成果及びその後の見通し

本事業では、「第2期復興・創生期間」の終期を見据え、復興知事業が自立した地域の政策となることを目指している。それを実現する方法として、現在、東大先端研で積み上げてきた**リビングラボの手法を用いた浜通り地域をフィールドとした実施**を復興庁と検討している。

このリビングラボの展開により、地元教育機関や産業界と連携しながら、短、中、長期的視点にたった人材育成の取組みとなり、風力産業やカーボンニュートラルを支える人員を継続的に輩出することが可能となる仕組みづくりや、構築したネットワークを活用した学術分野と産業分野との強い関係性のもとでの新たな取組みを進めることができる環境形成への貢献などが期待される。